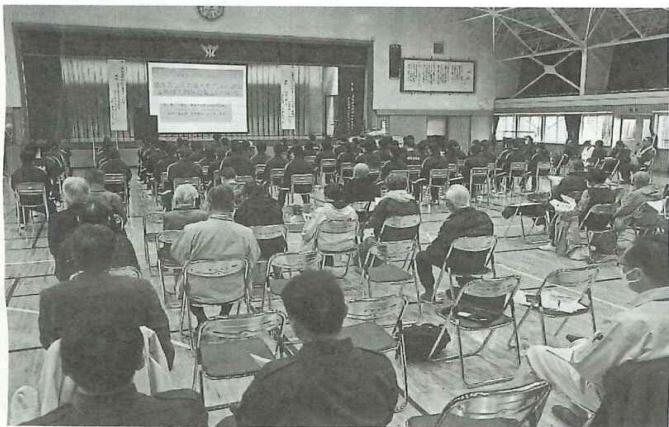


2025 (R7) 10/29 (水)

2面



25(R7)10/29(水)
日刊建設青森

迅速な津波避難 再認識

県、野辺地町
川を愛する会

陸奥湾想定し講演会

陸奥湾で発生する津波のリスクを正しく知り、迅速な避難につなげるための講演会が28日、県立野辺地高校で開かれた。

同校生徒や行政関係者、建設関連業者、一般市民

ら約150人が参加。災害を「自分ごと」と捉え、命を守るために普段から備える大切さを再認識した。

同講演会は8回目で、

おもりの川を

愛する会

長・佐々木幹

夫八戸工業大

学名誉教授

の3者が主催

し、日本技術

士会青森県支

部が後援。同

町で開催する

のは今回が初

めてで、町の

防災訓練の一環として開か

津波避難への意識を新たにした講演会

講演会では、佐々木名譽教授が講師となり、これまでの調査や検討成果に基づく地震と津波のメカニズムについて解説。

太平洋側で海溝型地震が発生した場合、161分後に最大4・5㍍の津波が野辺地町を襲う可能性があると述べ「人は30㍍の波で動けなくなり、1分で死亡する。避難場所にたどり着く経路の確認と訓練を日頃から心掛けほしい」と呼びかけた。

また、県河川砂防課の藤森由美子主幹が▽最大クラスの津波から人命を守る▽ハード・ソフトの施策を総動員させる多重防御など国の基本指針について説明。津波が野辺地町を飲み込む様子をアニメーションとCG動

れた。

講演会では、佐々木名譽教授が講師となり、これまでの調査や検討成果に基づく地震と津波のメカニズムについて解説。

より身近に、より自分のこととして捉えて主体的な避難行動につなげてほしい」と強調した。(山口聰)